

第1分科会

高校の探究活動を深めるために効果的な高大連携の“形”とは？
～高大連携の今と未来～

[報告者] 松嶋 亮潤 (京都府立福知山高等学校 未来探究部 教諭)
[報告者] 日下部成登 (京都府立北桑田高等学校 系属校準備部 教諭)
[コーディネーター] 白石 耕二 (京都府教育庁 指導部 高校教育課 指導主事)

本分科会では、2校による実践報告を通じて高大連携の可能性を考える。
福知山高校は、文理科学科の探究活動「みらい学」において、大学等での研究を見据えた活動の中で、研究を“学問的に深める”ために効果的な高大連携の形を模索している。その成果と課題を報告する。

北桑田高校は『森の京都』を教材化した探究学習に再構築する過程における高大連携の取組を通して、来年度系属高校としてスタートする北桑田高校が考える高大連携のあり方について報告する。

概 略

- 1 趣旨説明
- 2 報告
 - (1) 報告① 京都府立福知山高等学校 (松嶋氏)
テーマ: 「探究を研究へ ～『みらい学』における高大連携の実践と課題～」
 - ・文理科学科の総合的な探究の時間「みらい学」と指導体制
 - ・高大連携の成果と課題
 - ・高大連携を効果的なものにするためのポイント
 - (2) 報告② 京都府立北桑田高等学校 (日下部氏)
テーマ: 「高大連携 新しい形への取組」
 - ・探究的な学びにおけるモヤモヤの要因
 - ・高度な探究活動のための高大連携事例
 - ・高度な探究活動のための新しい高大連携の形 (系属高校としての取組)
- 3 報告に対する質疑応答
- 4 休憩
- 5 グループディスカッション
理想的な高大連携の形とその阻害要因 (モヤモヤ) についてグループディスカッション
- 6 意見の全体共有
各グループで出された意見を発表し、全体で共有した。

全体討論の内容

報告のあった2校における探究活動と高大連携の取組を参考に、参加者は自校での探究活動を振り返り、高大連携を通じた探究活動の深め方や、連携を進める際の体制の在り方について協議・共有した。

<報告者への主な質問>

質問①:

高大連携を進めるにあたり、大学側とどのように接点を持っているのか。また、教員個人の人脈を活用しているという話があったが、その人脈はどのように築いてきたのか。

質問②:

大学教員は、具体的にどのような形で高校の「総合的な探究の時間」に関わっているのか。

質問③:

大学教員等による講演について、少人数に分け、複数回実施することで理解が深まったという報告があったが、それに対して講師側からはどのような反応があったのか。具体的な声や様子を教えてください。

到達点と今後の課題

京都府立福知山高等学校および京都府立北桑田高等学校による、総合的な探究の時間を中心とした高大連携の取組には、いずれも「探究活動を高度化させる」という共通の目的がある。しかし、その高度化のあり方には大きな違いが見られる。

府立福知山高等学校では、大学教員による特別講義や発表会での助言にとどまらず、普段の総合的な探究の授業時間に大学教員が直接高校を訪れて指導したり、生徒と大学教員がオンラインで継続的にやり取りしたりする体制を整えている。これにより、生徒は専門的で細やかな指導を受けることが可能となり、学問への興味が深化し、探究の質的向上が実現している。

一方、府立北桑田高等学校では、少人数の生徒を対象に、大学教員が身近なテーマで特別講義を行うことで、生徒の興味・関心を喚起している。また、高校教員が大学教員から授業計画や実践について助言を受けることで授業改善にも取り組み、高大連携の効果を生徒だけでなく教員にまで広げること成功している。

両校に共通しているのは、連携の目的や生徒の興味・既習内容などについて丁寧に情報共有を行い、定期的に振り返りの場を設けるなど、高校と大学の教員が密にコミュニケーションを図っている点である。今回の分科会でも、効果的な高大連携を進める上で、このコミュニケーションこそが鍵であることが改めて確認された。

しかし、こうした成果がある一方で、依然として課題(モヤモヤ)は残されている。具体的には、コーディネーター不在によって生徒と大学教員のマッチングが難しいことや、探究活動の深化が生徒の希望進路の実現とどのように関連しているのかが不透明であることが挙げられる。今後は、高校と大学が協力関係をさらに強固にしつつ、探究活動をより深めるために、有効な高大連携の形を引き続き模索していく必要がある。



第1分科会

スライド 1

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

2025年度 第23回高大連携教育フォーラム

探究を研究へ！！

～『みらい学』における高大連携の実践と課題～

京都府立福知山高等学校
みらい探究部長/文理科学科長
教諭 松嶋 亮潤

スライド 2

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

○みらい学

(文理科学科の総合的な探究の時間)

- ✓ 将来の研究活動を意識
- ✓ 教師、大学、企業がバックアップ
- ✓ 全教科の学びを活用



スライド 3

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

みらい学 I (1時間/週)

1学期	2学期	3学期
探究基礎	研究①	最終発表

みらい学 II (2時間/週)

1学期	2学期	3学期
研究②	中間発表	最終発表

スライド 4

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

「みらい学」理系分野

MIRAI SCIENCE



スライド 5

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

「みらい学」文系分野

MIRAI ARTS



スライド 6

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

【みらい学 I テーマ(一部) ※昨年度】

《MIRAI SCIENCE I (理系)》

- ・ 福高 夜の住人:トレイルカメラの目撃証言(生物)
- ・ 炭酸飲料を用いた気体の分子量の測定(化学)

《MIRAI ARTS I (文系)》

- ・ ”まさにあまさ”の調査です(家庭)
- ・ デザイン ピクトグラムが学校にもたらす変化(美術)

スライド 7

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

【現在研究中のみらい学Ⅱ テーマ(一部)】
 《MIRAI SCIENCEⅡ(理系)》

- ・液体なのに意地っ張り?ダイラタンシー流体と速度のヘンな関係(物理)
- ・生ごみから作る未来のエネルギー(化学)
- ・今日、空きになりました。自習室編
 ~Pythonを用いて席の利用状況を把握する~(情報)
- ・福高掲示板を作るって伝えなきゃ!!(情報)

7

スライド 8

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

《MIRAI ARTSⅡ(文系)》

- ・ #アフター光秀~江戸時代の福知山藩主・朽木氏の災害対策~(歴史学)
- ・ Listen for Grammar ~洋楽に潜む中学英文法に耳を傾ける~(言語学)
- ・ 新世代 施策からのチャート式少子化対策(地域学)
- ・ めざせ!ポケモンおんがくマスター
 ~みんなも知識ゲットじゃぞ~(音楽)

8

スライド 9

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

【みらい学の指導体制】
 《担当教員》・みらい学Ⅰ 10名 ・みらい学Ⅱ 12名
 《研究アドバイザー・研究協力》
 ・京都大学 ・同志社大学 ・福知山公立大学
 ・京都府立大学
 《技術支援・連携等》
 ・三和分校 ・福知山市役所 ・京都府中丹技術支援室

9

スライド 10

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

包括的な高大連携に関する協定



10

スライド 11

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

研究室等との連携



11

スライド 12

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

様々なアウトプットの機会

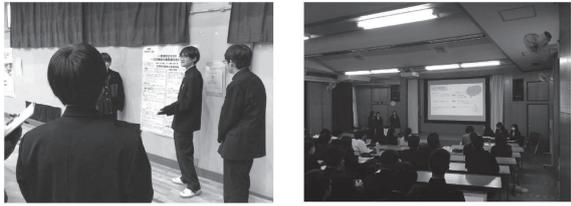


研究計画発表会 中間発表会

12

スライド 13

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School



探究発表祭 (F3!)

13

スライド 14

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

高大連携の成果

	学問への興味の深化	大学レベルの研究・実験設備
	探究の質的向上	大学教員・大学院生との交流
	実践的スキルの習得	研究方法・発表方法・思考力

14

スライド 15

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

高大連携の課題

	コーディネーターの不在	マッチングと情報共有
	大学と高校の違い	技術、知識、設備、時間、体制、意識
	進路との接続	探究の深化 ≠ 進路実現 ?
	負担感	時間・費用・調整

15

スライド 16

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

高大連携のポイント

	目的の明確化と共有	マッチングと情報共有
	丁寧なマッチング	生徒の興味やレベルの把握
	定期的な振り返り	生徒と教員
	コミュニケーション	大学と高校、教員間

16

スライド 17

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School

良好なWin-Win 関係を!!



17

スライド 18

京都府立福知山高等学校・附属中学校 Kyoto prefectural FUKUCHIYAMA High School & Junior High School



18

スライド 1



スライド 2

探究的な学びに関する本校の『モヤモヤ』要因
 ☆『ツテなし 金なし 時間なし 教科書なし』の四重苦
 R7教育課程研究協議会『総合的な探究の時間』部会で各校から挙げられた課題も、概ね、この四重苦に集約できる。

☆ 迷走して方向性を見失った全体計画
 「予算のかからない、日程に融通の効く連携を、週1単位の教育計画に落とし込み、10ヶ月で各々課題を見つけ、成果をまとめる」指導計画、それは、系統性という側面で大きな課題を残した。

☆ 『高度な探究活動のように見せたい』ための高大連携
 「探究活動を高度化させる」という本質より、「探究活動が高度化したように見える」ことを期待した連携になっていたのではない。

↓

本校の場合「探究的な学びの指導法を探究する教員の姿勢」に“モヤモヤ”の根本要因があった！

スライド 3

〈北桑田小・中・高連絡協議会からRestart〉
 「私たちが教えていた頃とは受け取り方が違うと思いますが、教材やゲストティーチャーの多くが小・中学校と多く重なっています。」



↓

『義務教育発展型』の探究学習から
 『自ら学びを高度化させていく大学型』の探究学習に全体計画の再構築を開始した！

スライド 4

高度な探究活動のための高大連携事例Ⅰ
 ☆京都大学大学院地球環境学堂浅利研究室
 [2020年～2022年]
 [現：総合地球環境学研究所 浅利美鈴教授]

↓

全体計画を外部評価
 「生徒自らが学びを高度化させていく探究学習」となっているか？

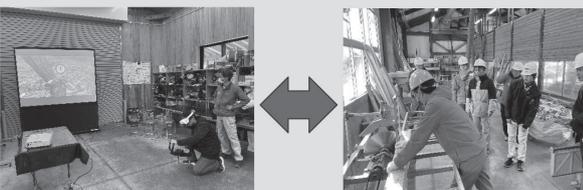


スライド 5

高度な探究活動のための高大連携事例Ⅱ
 ☆京都府立林業大学校 [2021年～現在]

↓

施設の相互利用による学習機会の充実



スライド 6

☆『系属高校』という新しい高大連携の形！

↓



高等学校
学習指導要領に基づいた教育活動



大学
自治に基づいた研究活動

探究にかける時間、探究分野における専門性、興味・関心の度合いの違いが「モヤモヤ」に！

スライド 7

高度な探究活動に向けた新しい連携の形Ⅰ
 ☆大学教授陣の深い知見に基づいた助言と広いネットワークは高校教員に“生きる”“活かせる”



教授陣から助言を受けた高校教員が、授業改善の過程で授業力を向上させるという好影響も！

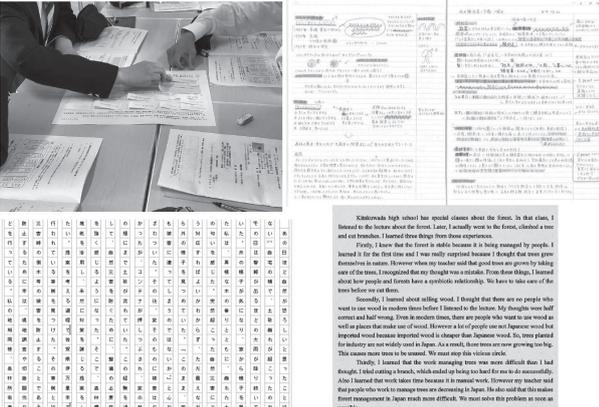
スライド 8

高度な探究活動に向けた新しい連携の形Ⅱ
 ☆特別講義は、教授陣が生徒の習熟状況や講義のねらい、到達目標を十分に共通理解した上で行う。
 例) 少人数で複数回 身近なテーマ 高校の学びとの関連づけ



スライド 9

学問的な刺激を受けて、思考を高度化させていく姿



スライド 10

高度な探究活動に向けた新しい連携の形Ⅲ
 ☆『系属校関係を成熟』させる上での課題

↓

京都府立大学系属学部・学科と北桑田高等学校の互恵関係をいかに構築できるか？

【例】

- 教授陣に対し、連携活動における高校生の学習成果を丁寧にフィードバックする。
- 高大連携により学問的な刺激を受けた生徒が、系属学科先への進学意欲を高める。
- 教授陣や院生・学生の研究活動に対する協力を行う。
- 他府県出身の学生の教育実習受け入れる。
- 高校の施設を使用した学生の体験支援を行う。 等々